

特42

456

訂正  
觀世流儀内百拾番

女部卷

23







國子寮の人も、  
 給石清然、  
 宇佐の宮、  
 と思ふ、  
 手も男、  
 物の花、

名草の、  
 花と、  
 の、  
 野草花、  
 林雨、  
 男、  
 名草の、  
 花と、  
 の、



繪白く花のまじりてきり雲のり  
 信年しく女男の戯れよる  
 くだよ借者も染むる  
 女男の男男のまじりてきり  
 花のまじりてきり  
 手折給ふ甚るき人の接人  
 身はあはれ人  
 手折給ふ甚るき人の接人  
 身はあはれ人

喉乱きたる女男の借り  
 借り社理ある此般人の花守あり  
 縦花守てもまじりて家  
 乃身あはれも佛の手向と思ふ  
 乃身あはれも佛の手向と思ふ  
 乃身あはれも佛の手向と思ふ  
 乃身あはれも佛の手向と思ふ  
 乃身あはれも佛の手向と思ふ  
 乃身あはれも佛の手向と思ふ







多しきりしりたり女弟花し  
とくしきりすきりすきりすきり  
思入の候人花さるある  
女弟花しり人かちまてり  
し一本たるせりやうき  
くぬ女弟花しりうめり  
流し女弟とくしきりすきり  
誰備者

契りきり彼那那のちりきり  
立下り美よのたちもぬなる  
やくし野鳥の女弟花し詠入  
来し備官よしきりひひし  
とくしきり者りきり備の  
甲斐りきりりりりりりり  
甲斐りきりりりりりりり  
貴くきりりりりりりり







世界もよりきりなるの千里も同一日  
の成るあきの玉垣みと志ろの錦か  
けきくもさびとみむら  
是より石清水の精宮よりさび入  
結と清のあまのや身のききくは歌  
中へ一あきく常花と下り  
男よりさびと謂めて作か

何れもあまのさびと常花の古きとひ  
しく戯れさびも侍りさびく作  
常花と申さる男より付たるは  
れさびくは又此の麓の男塚女塚と  
ていともさびくはさびくはさびくは  
成の男塚又此方あるは女塚とる男墳  
女塚よりて常花の謂めは是のま



婦乃人の女中早梅具支娘

の人の國行くがまゝなる成人也早  
 女都乃人男上波の備山中たの頼早  
 風とやし人上さうやあを  
 袴もさうありやなれ又あを早  
 報りまをさうあは復早あ思早より  
 かきしあまの思かへて夢乃

さうよがゆふり早一あ早

男鹿乃角のつりあ早陰早より

み早七早魂早さうあはのき早さ早

南無早無早出早離早生早死早煩早譚早音早提早

廣野人早稀早あ早の早我早古早墳早あ早て早又早

行早も早る早骸早と早あ早る早も早猛早歎早ち早

禁早よ早る早あ早る早あ早る早あ早る早あ早る早







あゝ一本生あゝ頼河の思  
 かうおき我妻の常花の成き  
 ちんねたきもあゝ草乃孩  
 ち我うても露もあゝあゝ  
 ち此花恨あゝあゝあゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ

乃昔とあゝあゝあゝあゝ  
 と書一あゝあゝあゝあゝ  
 ちあゝ頼河の時よ彼あゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ  
 ちあゝあゝあゝあゝあゝ







てたひびくことなほてたひびく

右之本者觀世大夫織部以章句  
真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷

明治廿六年二月同日訂正出版

明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地  
宮内省御用達

訂正者 觀世清廉

板權 所有

發行所 京都市上京區二条通御幸町壹番地  
兼印刷者 檜常之助





